

令和8年度改定を踏まえたDPC/PDPSの現況について

I. DPC/PDPSの現況

1 病院の規模

(1) 病院数

- 令和8年6月時点で、DPC対象病院の数は1,685病院（前年度-76）、DPC準備病院の数は252（前年度+24）となる見込み（※）。

※ いずれも集計時点（令和8年4月1日）における、令和8年6月時点の見込み値であり、今後の医療機関の再編等により変動し得る。以下同じ。

- 令和7年6月以降の病院数の増減の内訳は、以下のとおり。

増減の理由	医療機関数
診療報酬改定に伴う新規参加	+12
診療報酬改定に伴う任意退出	-20
入院基本料に係る施設基準の変更による退出	-13
DPC対象病院の基準未達による退出	-51
保険医療機関の廃止による退出	-2
DPC対象病院の再編 （※いずれも2医療機関⇒1医療機関の合併）	-2

(2) 病床数

- 令和8年6月時点で、DPC算定病床数は、DPC対象病院が約47万床（前年度約-9.7千床）、DPC準備病院が約1.9万床（前年度約+0.3千床）となる見込み。
- このうち、急性期一般入院料1～6の届出病床数は約37万床、特定機能病院入院基本料の届出病床数は約5.6万床であった。また、同時点におけるDPC対象病院の1病院あたりのDPC算定病床数の平均は277床、最小は16床、最大は1,218床であった。

2 診断群分類

令和8年度改定を踏まえ、傷病名数は504（前回-2）、診断群分類数は3,265（前回+17）となる。そのうち、包括対象となる支払い分類数は2,449（前回-28）であった（前回は令和6年度診療報酬改定時）。

Ⅱ. 令和8年度改定における対応

1 医療機関別係数の見直し

(1) 基礎係数（医療機関群）

DPC 標準病院群のうち、救急車等による搬送により入院した患者数や、全身麻酔による手術件数等に係る基準に基づき、これらの基準を満たす医療機関については、それ以外の医療機関と基礎係数の評価を区別した。

(2) 機能評価係数 I

入院患者全員に対して算定される加算等を係数化する現行の評価手法を継続し、医科点数表の改定に応じて、各項目の評価の見直しへの対応や、新設された入院基本料等加算の設定等を行った。

(3) 機能評価係数Ⅱ・救急補正係数

複雑性係数における評価手法の見直しや、地域医療係数の体制評価指数における評価項目の新設を行うとともに、DPC 標準病院群の定量評価指数については、新たに、がん、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患及び周産期の4領域にも着目した評価に見直した。

(4) 激変緩和係数

従前の設定方法を継続し、改定に伴う変動に対応するため、激変緩和係数を設定した。

2 診断群分類点数表の見直し

(1) 診療報酬改定の反映

医療資源の同等性、臨床的類似性等の観点から、診断群分類及び診断群分類ごとの評価を見直した。

(2) 入院期間Ⅱの見直し

多くの診断群分類において、平均在院日数が在院日数の中央値を上回っている実態を踏まえ、点数設定方式 A~C が適用される診断群分類のうち、在院日数の変動係数が 0.6 を下回る診断群分類については、10% を変動率の上限として、入院期間Ⅱを平均在院日数から在院日数の中央値へ見直した。